

---

# 秋空の通り雨

来々

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

秋空の通り雨

### 【Nコード】

N9003C

### 【作者名】

来々

### 【あらすじ】

世の中、生きていくだけで疲れてくる。辛くて苦しくて泣けてくる。死にたくなる時だって沢山ある。でもそんな時は、決まって雨が降るんだ。神様と、お母さんからの贈り物。それをもらって、私は今まで頑張れた。さあ、もう少し生きてみようか。

それはまるで、

秋空の通り雨のように。

心の空は晴れたまま、

雨という名の涙を流す。

こんな日の神様は、

いったい何を考えているのだろうか。

気が付いて、一番最初に目に入ったのは、命の温かさが感じられない、無機質な真っ白の天井だった。

ここは何処だろうか。

ゆっくりと、身体の間を確かめながら横をみる。

小さな窓があったので、私はベッドを降りて、外を見てみる事にした。

少しふらつくが、ちゃんと歩けるようだ。

窓まで着くと、ベッドの上より少し肌寒い気がした。身につけてい

る、青と白の縞模様の服が、余程薄いのだろう。

一度自分の身体を抱き締めてから、ガラスの部分に、壁に寄りかかりながら右手をやる。

ピンと張りつめた、命の通わない冷たさに、何故か懐かしさを感じた。

外に目をやると、どこか不思議な感覚になった。

空は青く晴れているのに、強い雨が降っている。

何かが、頭の奥をかすめた気がした。

何だっけ？

そうだ。

あれは幼い頃にした、母との会話。

「ねえお母さん。なんでお空は、晴れたり曇ったり、雨が降ったりするの？」

保育園の帰り。雨上がりの道を、母と手を繋ぎながら私は尋ねた。すると母は、

「それはね、お空は神様の気持ちだからなの」

と言って笑った。

「気持ち？」

幼い私は、母に負けなくらいの笑顔で聞き返した。

「そう、気持ち。だから、神様の機嫌が良い日は晴れになるし、機嫌が悪い日は雨になったりするの」

そう言って、母は私を抱っこしてくれた。

母の胸元で甘える私。

今はもう、

遠い記憶……………。

でも、空が神様の気持ちなら、今の神様は、いったい何を思っているのだろう。

晴れているのに、雨が降っている。

機嫌は良いのか悪いのか。

冷たい風が部屋に入ってきた。身体を震わせながら振り返って見ると、ドアの所に、スーパールのビニール袋を持った母が立っていた。

窓際にいる私を見た母は、少しだけ恥ずかしそうに、笑った。

あの時と同じ笑顔で、  
静かに笑った。

私がベッドに入り直すと、母は何も言わずに、横にあったイスに腰掛けた。

二人の間に流れる沈黙が、少しだけ重い。

「気が付いて、本当に良かったわ」

母がビニール袋からリンゴを取り出しながら言う。

「ねえ、ここは何処？なんで私はここにいるの？」

私は、少しだけ声を大きくして言った。

母は一度下を向き、口をキュッと結んでから話しはじめた。

「……………ここは病院。覚えてないの？貴方は三日前に……………」

そこまで言って、母はまたうつ向いてしまった。

……………病院？

ああ、そうだ。私は三日前、自殺しようとして橋から飛び降りて、それで……………。

「……………大丈夫。思い出したよ、母さん」

私は、今は出来る精一杯の笑顔を母に見せた。

「そう……………。ねえ、貴方なんで自殺しようとしたの？何が不満なの？」

母は不安そうな顔をする。

「さあ、なんでだろう？なんか疲れちゃったんだと思うよ。世の中の色々な事に」

それきり、また沈黙。  
さつきよりもずっと重い。

「……………神様は、今どんな気持ちかな？」

幼い頃を思い出し、私は言った。

「……………なに？」

顔を上げた母は、目に涙を浮かべている。

私は少し、声の調子を上げて言った。

「ほら、昔さあ。空は神様の気持ちだって言ってたじゃん。晴れたら機嫌が良くて、雨だと機嫌が悪い。だったら、今日みたいに晴れてるのに雨の日って、神様は何を考えてるのかなあと思って」

母は少し唇を噛んで、その後に微笑みながら言った。

「……ああ、懐かしいね。保育園の頃だっけ？」

それから窓の方を見て、

「こんな天気の日だね、神様が私達に優しい日なの。私達が生きている中で溜め込んだ、怒りとか、疲れとかを、涙で神様が癒してくれるのよ。悲しい涙じゃなくて、癒しの涙で」

母は私の方を見て、もう一度笑った。

私は母の顔を見た。

秋空の通り雨を背に、そっと笑顔でいる。

「……………私、もう自殺なんかしないよ」

自然と口から出た言葉。

その後は、ずっと母と抱き合っていた。

母は、涙を流している。

悲しみの涙ではない、癒しの涙を。



それはまるで、

秋空の通り雨のように。

心の空は晴れたまま、

雨という名の涙を流す。

でもその涙は暖かく、私を芯から癒してくれた。

ギュッと包んでくれた。

母の涙と神様の涙。

もう、

「疲れた」

なんて言えないよね。

雨はもう上がり、窓の水滴が輝いている。

よし、生きてみようか。

## （後書き）

皆様お元気でしょうか。久々に投稿しました、来々です。今回は死について小難しく書いてみました。今はこんな世の中ですから、疲れたとか、そんな簡単な理由で死のうとする人が、結構いると思います。だけれど、そんな世の中に疲れちゃった人の事を、凄く大事に思っている人もいると思うんです。中々伝わりづらいテーマとは思いますが、どうにか理解して頂ければ幸いです。では次回こそご期待下さい。来々でした。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9003c/>

---

秋空の通り雨

2010年10月28日08時22分発行